

社会福祉学科
カリキュラムチャート

	1年		2年		3年		4年						
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
	●初期演習 I		●初期演習 II (社会福祉)										
	●英語 I		●英語 II										
	●Oral Communication I		●Oral Communication II										
	●TOEIC認定英語 I~IV												
ソーシャルワーク・コア	●精神保健A ●精神保健福祉の原理A	●精神保健B ●精神保健福祉の原理B	●精神障害リハビリテーション論 ●精神保健福祉制度論 ●精神疾患とその治療A ●ソーシャルワークの理論と方法(専門)A	●精神疾患とその治療B ●ソーシャルワークの理論と方法(専門)B	●現代社会と福祉A ●社会保障論A ●公的扶助論 ●福祉サービスの組織と経営 ●ソーシャルワーク論II A ●虐待とソーシャルワーク ●ソーシャルワーク実習指導III ●ソーシャルワーク実習III	●現代社会と福祉B ●社会保障論B ●更生保護制度 ●保健医療サービス ●ソーシャルワーク論II B ●スーパービジョン論 ●スクールソーシャルワーク ●ソーシャルワーク実習指導II ●ソーシャルワーク実習II	●ソーシャルワーク演習(専門)B ●ソーシャルワーク演習III	●ソーシャルワーク演習(専門)C ●ソーシャルワーク演習IV ●ソーシャルワーク実習IV					
	●ソーシャルワーク概論A ●心理学概論 ●ソーシャルワーク演習IA	●ソーシャルワーク概論B ●権利擁護と成年後見制度 ●人体の構造と機能及び疾病 ●ソーシャルワーク演習IB	●ソーシャルワーク論IA ●地域福祉論A ●障害者福祉論 ●高齢者福祉論 ●児童・家庭福祉論 ●ソーシャルワーク演習IIA	●ソーシャルワーク論IB ●地域福祉論B ●社会調査法 ●医療ソーシャルワーク ●社会学 ●ソーシャルワーク演習IIB					●現代社会と福祉C ●社会保障論C ●公的扶助論 ●福祉サービスの組織と経営 ●ソーシャルワーク論II C ●虐待とソーシャルワーク ●ソーシャルワーク実習指導I ●ソーシャルワーク実習I	●現代社会と福祉D ●社会保障論D ●公的扶助論 ●福祉サービスの組織と経営 ●ソーシャルワーク論II D ●虐待とソーシャルワーク ●ソーシャルワーク実習指導IV ●ソーシャルワーク実習IV	●社会福祉特講 ●社会福祉事業史	●社会福祉特講 ●社会福祉事業史	
	●フィールド調査の基礎 ●多文化社会概論	●NGO・NPO概論 ●社会貢献とボランティア ●フィールドワーク演習I	●多文化社会実践論 ●多文化社会のソーシャルワークI	●ソーシャルビジネス概論 ●フェアトレード概論 ●フィールドワーク演習II					●多文化社会のソーシャルワークII ●共生の社会心理 ●ソーシャルビジネス・マネジメント	●コミュニティメディア論 ●コミュニティ防災論 ●ジェンダーと開発 ●フィールドワーク実習指導I	●多文化社会のコミュニケーション ●ソーシャルビジネス計画演習 ●フィールドワーク実習指導II	●NGO・NPOマネジメント演習 ●フィールドワーク実習III	●フィールドワーク実習
	●卒業論文	●卒業論文	●卒業論文	●卒業論文					●卒業論文	●卒業論文	●卒業論文	●卒業論文	
教共 育通	共通教育科目: 基礎教養科目群、ジェンダー科目群、キャリアデザイン科目群、言語・情報科目群、健康・スポーツ科目群、大学・初年次ゼミ												
学 部 共 通	●人間と社会 (HEARTプログラムコア)		●感情・人格心理学 ●発達心理学I		●コミュニケーション論 ●神経・生理心理学 ●学習・言語心理学 ●知覚・認知心理学 ●リスク心理学 ●社会・集団・家族心理学	●グループダイナミクス ●心理学的支援法I	●障害者・障害児心理学	●消費者心理学 ●マーケティング論					

知識 = ●

①多様性・複雑化する社会を理解する力
・基礎的な知識や汎用的な技能に加えて、デジタル社会における基礎的リテラシーを身につける必要があることから、それらの知識や技能などを総合的に活用する力を有している。

②“生きること”につながる専門性
・グローバル化する社会状況を踏まえ、多様な人々がそれぞれの価値観を尊重して生きていく社会を築くための社会福祉学に関する基礎的・専門的知識を有している。

姿勢 = ●

③自他を尊重する姿勢
・自他ともに個人として尊重されるべき存在として理解することにより、自己の強みを認識しつつ、円滑な人間関係を構築する。さらにそれを維持しながら多様な人々と協働することができる。

④失敗をおそれず挑戦する姿勢
・失敗を恐れず挑戦する姿勢を身につけるため、倫理的ジレンマを捉えつつ、問題に対する新たな解決策を立案し、粘り強く且つ主体的に取り組むことができる。

⑤逆境や困難に対応するしなやかな姿勢
・複雑化する社会で暮らす一員として、逆境や困難に対して他者と協働・信頼関係を構築し、助け合うことができる。自らの役割を見出しこころもからだも健康に、暮らしやすい社会の実現に向けて行動することができる。

行動 = ●

⑥論理的に考え伝える力
・自らの考えを表現したいという欲求を常にもち、情報を多角的に収集し、客観的に根拠に基づく論理的・批判的な思考を得ることができる。同時に自らの考えを他者に伝えられるコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力も有することができる。

⑦新たに価値を創造する力
・自らの考えを他者に伝えるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を有している。その際、柔軟な発想や視点の転換により、新たな価値を自ら生み出すことができる。

⑧多様な人々と協働する力
・社会の多様性、異質性にしなやかな姿勢で謙虚に向き合い、対話をおして多様な人々と協働できる。互いの価値観を認め、信頼関係を構築するために、“Cool head but warm heart (冷静な頭脳と温かい心)”をもって社会的な課題に立ち向かうことができる。